

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	首都圏 - 1	(2) 記載者氏名:	小林 義亮 西田 進	会員番号:	10302 12227	事務局整理記入欄	スキークラブ - 7
分水嶺区分	E353引馬峠～E352との間、E353～E354手前			(3) 山行日:	2005年	4月	30日 (4) 天候: 晴

(5) 参加者氏名および会員番号 (A) 黒岩山隊 (B) 台倉高山隊 (C) 待機隊

高原 三平	7949	C	早川 英夫	8273	B	福士 節子	8147	A		
小林 義亮	10302	A	早川 滉	5718	A	高橋 毅	9816	C		
藪田 益資	10244	A	日出平 洋太郎	13677	A	賢田 統亜(ゲスト)	6497	A		
西田 進	12227	B	福岡 孝昭	12185	B					
									計	11名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	幕営地(舟岐川キャンプ場)～待機点～引馬峠～引馬峠・台倉高山間の引返し点～待機点～幕営地												
アプローチ:	舟岐川キャンプ場まで車使用												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	幕営地 (舟岐川キャンプ場)	帝釈山	139	23	16.20	36	59	19.85	1092		5:19		
待機点	引馬峠下	帝釈山	139	25	34.30	36	55	54.08	1844	11:24	11:46		
分水嶺到達点E353	引馬峠	帝釈山	139	25	40.87	36	55	28.90	1908	12:23	12:27		
	1981.7m地点	帝釈山	139	25	52.41	36	55	36.51	1991	13:06	13:12		
B隊引き返し点	引馬峠と台倉高山との間	帝釈山	139	25	55.14	36	55	54.48	1928	13:49	13:49		
B隊待機点へ戻る	引馬峠下	帝釈山	139	25	34.30	36	55	54.08	1844	14:13	15:12		
A隊引返し点	孫兵衛山分岐手前	帝釈山	139	24	39.64	36	55	38.83	2012	13:29	13:41		
A隊待機点へ戻る	引馬峠下	帝釈山	139	25	34.30	36	55	54.08	1844	15:06	15:16		
歩行終了点	幕営地 (舟岐川キャンプ場)	帝釈山	139	23	16.20	36	59	19.85	1092	18:20			
											総歩行時間(休憩時間を除く)	11時間36分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記
	1981.7m地点				積雪のため確認できず

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

引馬峠北約100m地点に金属標識板(表示内容は判読できず)と赤布(比較的新しい)があった。檜枝岐に下る沢筋の入口を示すものと思われる。

(9) 水および植生に関連した特記事項

踏査した地域は常緑針葉樹(トウヒの仲間)と落葉広葉樹(ダケカンバ)の混交林である。場所によりいずれか一方が優勢であったり、ほぼ互角であったり変化が見られた。トウヒは陰樹、ダケカンバは陽樹であり何らかの原因でトウヒが枯れて陽が差した部分にダケカンバが生育したのではないと思われる。

(10) その他の特記事項

今シーズン豪雪ではあったが下部の沢は割れていた。林道上部は崩壊部分もあり、積雪の斜面となっていて沢への滑落の危険性があり、スキー登山が有効。しかし稜線まで7時間を要しており、アプローチが長く稜線へのルートとしては不適である。残区間の踏破には車で入れる馬坂峠からのルート(但し車で入る時期は藪こぎとなる)と、尾瀬から黒岩山経由のルート(無雪期藪こぎ)に分かれる。
--

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
1981.7m地点から望む台倉高山方面
A隊(黒岩山隊)引き返し点から望む孫兵衛山分岐方面

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。



198.7m地点から望む台倉高山方面



A隊(黒岩山隊)引き返し点から望む孫兵衛山分岐方面